

磐城時報

福島縣石城郡平町綴屋町十四
 編輯兼發行所 田 弘 成
 印刷所 石城郡平町綴屋町十四
 印刷 加納活版所
 電話 一〇四一
 廣告料 一行十四字 一月五拾圓
 一月三拾圓 一月二十圓 一月十圓
 零售 每份三錢 郵費在內
 訂費 半年五十圓 一年九十圓
 電話 一〇四一 印刷 一〇四一

増額された遊興税は

組合で引受られぬ

聯合幹部會で決議し
 谷口組合長が答申

平町遊藝関係に賦課する遊興税は昭和三年度賦課額課税町税合計一萬六千五百八十八圓八十錢は平遊藝組合に於て負擔し、盛妓の賣上玉から差引いて納付して来たが、本年度の賦課額は二萬三千三百二十八圓一圓四割強の増加で而も縣當局に於ては四月から徵收すべき本年度の賦課額を六月に入つてから増額した旨告知して来たので組合は内心面白からず本年から受負ひ制度を廢して縣の徵收に委せやうといふ議論が持ち上つて来たが、之が善後策協議のため平遊藝組合、平料理屋組合は十九日午後七時から平町田町のんき亭に於て聯合幹部會を開き、縣賦課の昭和四年度遊興税は組合に於て納付の受負ひが出来ぬから縣で勝手に徵收して貰ひたいと答申する事に決議し、谷口組合長の名義で二十日平町役場を経てその旨縣に報告した。遊藝屋、料理屋に於て受負ひが出来ぬと決議した大體の理由は次の如くである。

前年度まで遊興税の課税率が三圓であつたのが二圓に低下したのは別として縣下遊興税對して調査方を依頼する等紛擾至つた。

酒造家の

資本合同

石城郡高久村酒造家鈴木森太郎氏は最近における財界の影響並に郡内酒造業發達の爲め従来の個人經營を會社組織することになり目下準備を進めて居るが酒造家の

豊間漁業組合紛擾

遠藤氏が五千圓辨償

豊間村漁業組合長遠藤藤之丞氏が起つてゐたが、平區裁判所が前年度から三年度以來預つてゐた田檢事が調停の勞を執り二十日組合基本金二萬圓のうち行衛平區裁判所に關係者三名を招き不明の金七千二百圓がある事本遠藤藤之丞氏をして使途不明の年四月になつて役員間で發見し現金のうち五千二百圓を支拂はたので問題となり組合監事遠藤藤之丞氏を解任する事を條三郎、鈴木繁松の兩氏が縣に件として調停裡に解決を見るに對して調査方を依頼する等紛擾至つた。

軍艦五十鈴が小名濱に寄港

五日間簡閲点呼 一般の便乗を許す

横須賀鎮守府では艦上簡閲点呼ける事務視察の爲め巡視中の處で軍事思想普及を兼ね軍艦五十鈴原警察署には十八日午後一時着三郡簡閲点呼のため七月十五日午後六時小名濱港に入港し二十日まで五日間艦上で点呼を行ふ事になつた、例年の如く希望者參觀を許す等であるが、向は二十一日午前七時小名濱港を出發する際は特に希望者の便乗を許し宮城縣女川港に至る豫定であるが資格は十五歳以上である。

原町通信

- ▲濱三郡郵便業務研究会
- ▲石神初町會
- ▲小高町初町會
- ▲原町初町會
- ▲大瀧村初町會
- ▲秋葉神社例祭
- ▲選舉異議追加

出廻りが多過ぎて四倉市場臨休

一日二千四百五十貫 例年にならない盛況

貸家案内

- | | | |
|-----|-----|--------|
| 白銀町 | 商店向 | 七十圓 |
| 仲町 | 商店向 | 四十圓五十錢 |
| 同 | 商店向 | 四十圓五十錢 |
| 同 | 商店向 | 五十圓 |
| 同 | 商店向 | 五十圓 |
| 同 | 商店向 | 五十圓 |
| 同 | 商店向 | 五十圓 |
| 同 | 商店向 | 五十圓 |
| 同 | 商店向 | 五十圓 |
| 同 | 商店向 | 五十圓 |
| 同 | 商店向 | 五十圓 |

沖繩から

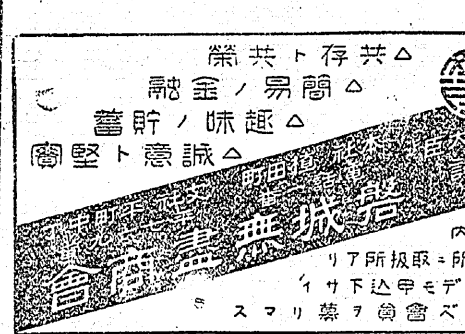
稻刈始まり 沖繩西表稲葉炭礦 山崎喜正 當地は愈々稲刈に着手候收穫は前便申上通り一反歩八、九斗位の由而して絶對肥料を施さず重ね所に應じ上より取出し手にて一穂づゝ技き木白にて撫り玄米となす其仕事の幼稚なるは實に御話の外なく何に爲め肥料を施さぬかを聞くに肥料を施せば出来過ぎて此國は暴風多き事は皆倒して收穫を見る事不可能なりと云ふ。稲は早く刈るゝが爲めなり畑地にも同様肥料

選擧異議追加

平町 兪實に官路を絶ず當議員長堂孫理氏は本村の人にして猪捕の妙を得小生参りてより既に數頭を捕獲す其勇猛なる感服の外なし

貸家案内

- | | | |
|-----|-----|--------|
| 白銀町 | 商店向 | 七十圓 |
| 仲町 | 商店向 | 四十圓五十錢 |
| 同 | 商店向 | 四十圓五十錢 |
| 同 | 商店向 | 五十圓 |
| 同 | 商店向 | 五十圓 |
| 同 | 商店向 | 五十圓 |
| 同 | 商店向 | 五十圓 |
| 同 | 商店向 | 五十圓 |
| 同 | 商店向 | 五十圓 |
| 同 | 商店向 | 五十圓 |
| 同 | 商店向 | 五十圓 |



農共ト存共△ 融金ノ易融△ 蓄貯ノ味趣△ 衛生ト意誠△

俳句片々(十)

曲水雜詠 三木谷 鷗子 選

なめくちを地に鳴らし来る山雨から 左 黒子

今にも大雨が襲来して来る風聲の物凄まじく響き、頂上より吹き下して来た、草木の打

米磨ぐる前を三つ四つ登哉と詠んだ。それを知人に頒布した

事柄れど、言ひ放たれて、熟々思考、究考した結果に発見した

悟りつけた。其の付句に発見したのには「に」を「を」であるが、他當る六月廿一日より特別大興行

三大名篇遂公開 阪妻プロ草間派大作映畫 草間 實子 主演

祝原町支局開設 石神村 長治郎 大和田 長治郎 瀨谷 藤吉

外科 花柳病科 専門 木村外科醫院 電話三〇九番